

●東海支部 特別講演会

Flemings 教授は、マサチューセッツ工科大学 (MIT) における材料学科の主任を永年にわたって勤められ、広く材料全般の発展に意を注がれてこられたため、いまやご専門の“金属の凝固”の研究者と言うに留まらず米国の材料分野全体を代表される学者であります。今回、訪日の機会を捕らえ、過密な日程の中を東海支部会員のため、下記のご講演を下さる運びとなりました。題目からご推察頂けますように、米国における材料科学・工学の最近の動向が高い見地から伺えるものと期待できます。多数御参加下さいませようご案内申し上げます。(入場無料)

記

日 時：平成 4 年 7 月 9 日 (木) 15:00~16:30

会 場：名古屋大学豊田講堂第 1 会議室[〒464 名古屋市千種区不老町](地下鉄東山線本山下車徒歩 20 分)

題 目：The Recent Trend and Activities of Materials Science and Engineering in U.S.A.

(米国における材料科学・工学の最近の趨勢と展開)

講 師：マサチューセッツ工科大学 (MIT) 教授・トヨタプロフェッサー Merton C. Flemings 氏

連絡先：〒464-01 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部機能・材料工学教室内

日本鉄鋼協会東海支部 TEL (052)781-5111 (内)3372

「戦後復興期における日本鉄鋼技術の発展」

(昭和 20 年より 30 年代初頭まで)

発刊に際して画像情報資料 (写真, その他)

提供お願いについて

本会、戦後技術史調査小委員会では、現在「戦後復興期における日本鉄鋼技術の発展」と題する報告を近々発刊を目標に第 1 次原稿を作成致しました。スケルトンは、下記に記すとおりであります。現在、特に第 1 次合理化計画で建設された設備関係の写真や各種調査団の記念写真等探索中ではありますが中々入手困難で困っております。そこで会員の方々の中で上記の画像情報資料をお持ちで提供いただける方は、下記宛ご連絡いただきたくよろしくお願い致します。なお、本報告書は、本文 200 頁、資料 100 頁にわたる膨大なもので、本年 9 月頃刊行を目標に鋭意編集作業を進めております。鉄鋼技術史の空白を埋める貴重な文献となるものなので、是非ご期待下さい。8 月頃には予約を受け付ける予定です。

なお、戦中の鉄鋼技術については昨年 3 月に「戦前軍用特殊技術の導入と開発」を出版しておりますので御関心の方は御購入をお願い致します。

記

戦後復興期における日本鉄鋼技術の発展

(昭和 20 年より昭和 30 年代初頭まで)

- | | |
|---------------------|----------------------------------|
| 第一部 日本鉄鋼業の戦後復興の端緒 | 第三部 近代化への門出 |
| 第一章 生産の再開と鉄鋼業再建の指針 | 第一章 朝鮮動乱の勃発と鉄鋼業 |
| 第二章 賠償問題の変遷 | 第二章 鉄鋼業第一次合理化計画 |
| 第三章 鉄鋼生産回復の足取り | 第三章 第一次継続合理化計画 |
| 第四章 経済諸制度の変革 | 第四章 第一次合理化計画 (一次継続を含む) を推進した税制措置 |
| 第五章 高炉調査団・平炉調査団の派遣 | 第五章 外国技術の導入と設備機械の輸入 |
| 第二部 鉄鋼業の自立化の努力 | 第六章 第一次合理化計画 (一次継続を含む) の実施による効果 |
| 第一章 ドッジ・ラインと鉄鋼業 | 終章 |
| 第二章 鉄鋼業の自立化方策 | |
| 第三章 米国鉄鋼技術者の指導 | |
| 第四章 訪米鉄鋼業調査団の派遣 | |
| 第五章 産・官・学の共同研究体制の確立 | |

<連絡先> (社)日本鉄鋼協会 図書・資料室 渡辺
〒100 東京都千代田区大手町 2-7-1 日本ビル別館 10 F
TEL (03)3241-1228 FAX (03)3241-3941